

武蔵野日記

(6月24日~7月24日)

発行人 社会福祉法人武蔵野
武蔵野市吉祥寺北町4-11-16
0422(54)7666

8月1日現在 職員総数 306名

生活介護 (大地・山びこ・ふれあい) meets コミュニティ・ビジネス

デイセンター山びこ 施設長 荒木 大輔

先日(7/21)生活介護3事業所主催の自主勉強会「地域に伝わるシゴトの作り方」を開催しました。生活介護3事業所(大地、山びこ、ふれあい)は、これまで独自の歴史や発展があって現在の到達があるのですが、これからは一つの大きな目標を共有しよう、それぞれの良さを活かし合おう、それぞれの課題をクリアしようと、大小様々な取り組みをしてきました。

その大きな目標とは? まだ明確なフレーズには固まりきっていませんが、イメージは「一人ひとりの『はたらき』を高める支援をしよう」ということです。

障害が大変重い方であっても、その方の存在や表現は時に人の心を動かし、価値観を揺さぶります。その動きは社会を変える可能性を持っています。これも一つの「はたらき」です。

重度の知的障害や自閉症の方も、軽作業や織り物、アルミ缶リサイクルや公園清掃などを通して周囲の人から肯定的なメッセージを受け取るとその「はたらき」は誇りや内発性の高まりに転じ、再び社会に向かっていきます。

私たち支援者は、その「はたらき」を高めていくこと、つまり個別の介助者や所定の作業・プログラムを提供することにとどめず、障害のある人の「社会参加」や「いきがい」、そして福祉社会の発展につなげる力を高めていくことが重要だと考えています。

(説明が長くなりましたが)今回の勉強会のねらいは、まさにこの点。社会とのつながりを確かにしようとする際に、私たちはどうしても福祉的な視点だけで考えがちです(もちろん、その視点を追求し、究めていくことは重要です)。しかし社会とのつながり方はそれだけではありません。「ビジネス」を通じて社会とつながる、というチャンネルもあります。大地・山びこ・ふれあいはhicobaeという店舗で製品を販売している、という点でいえば「商品企画」と「製造」と「小売り」をしている、とも言えます。私たちは既に、ビジネスを通じて地域とつながっているのです。

今回は、実際にコミュニティ・ビジネスを展開しながら多くの障害者施設とパートナーシップを結び成長を続けている株式会社MNHの代表取締役、小澤氏をお招きし、そのビジネスモデルについて講演いただいたあと、私達参加者もビジネスアイデアを持ち寄って参加者同士のワークを行ない、小澤氏に講評いただく形式をとりました。

- 商品開発のノウハウ(どんな人に、どんな場所で、どんなモノを売るのか)
- 会社の存続戦略(ブルーオーシャンをどのようにつくり、守るか)
- ご利用者にお支払いする工賃の算出根拠(障害のある人の労働力をどう評価するか)

これからの製品づくりやhicobaeの運営、地域向けイベントへの参加のあり方に生きる、刺激的な知見がたくさん得られました。参加者も志を新たにできたのではないかと思います。

「福祉を“盾”にして守るのではなく、福祉を“武器”にして戦いましょう。」小澤氏はそう言いながら、福祉施設の可能性についても熱いメッセージを送ってくださいました。

私たちも「いい話を聞いた」では終われません。これから具体的なActionにつなげ、また皆さんに何らかの形でお示ししたいと思います。ご期待ください。



桜堤ケアハウスでの生活を継続するために

桜堤ケアハウス 副施設長 鈴木田 淳

一般的にケアハウスに入居している方の日常生活については、外部の方からは、わかりづらい面があるかと思います。私自身も3月まで2階のデイサービスに勤務していましたが、入居者の方とは廊下などでお会いすることはあっても、生活の中身を把握する機会はありませんでした。

4月からケアハウスに異動となり、入居者1人1人の生活に向き合うことになりました。

入居するための要件の一つは日常生活が概ね自立されている方となっています。直接的な介助をおこなう職員は配置されていないので、入居後はケアハウス内の生活のみでなく、外出する時も付添などの支援は受けずに生活されることとなります。日常生活は概ね自立されているの方が多いのですが、生活支援サービスや介護保険のサービスなども使いながら、出来る限り現在の生活を続けていけるように様々な支援をおこなっています。入居している方は80代以上の方が多く、平均年齢は86歳となっています。持病をもっている方も多いこともあり、体調の変化で生活が変わることがあります。

4月半ば、男性入居者が体調の急変により緊急入院されました。通常、入院の場合には保証人が様々な対応をおこなうのですが、保証人が不在であったため、入院手続きや入院費の支払いの際の支援などの身上監護は職員が行いました。本来の業務ではないので試行錯誤をしながら関係機関とも連携して進めました。

当初の予定より入院期間が長期化したため、本人からは「早くケアハウスに戻りたい」との発言が聞かれ、本人の帰りたいとの気持ちを受け止めつつ、病院の相談員とも連携をとりながらケアハウスの生活に戻るための支援を考えました。ケアハウスに戻るためには日常生活が概ね自立されていることが条件となります。病院でもリハビリが開始されたので、担当の理学療法士にケアハウスの環境や戻するために必要な条件などを伝え、本人とも共有しました。リハビリを開始した当初は早く戻りたい、との気持ちが先行していた様子もみられました。毎週、面会に行き目標を確認するなかで、身体機能も少しずつ回復し気持ちも落ち着いてきたようです。退院日が決まった後もリハビリに励み生活改善の必要性も実感されていたようで退院となり、現在はほぼ通常の生活を送っています。

退院した男性入居者はケアハウスには自由があると発言されていました。一定のルールはありますが、ケアハウスには入居者1人1人の思い描く生活を送る自由があります。また、生活の在り方はそれぞれ異なりますが、ケアハウスが入居者にとっては生活の場(住居)として定着しています。生活を構成する要素は様々ですがケアハウス内には自主活動などもあり、主体的に生活されている場面では楽しみながら活動している様子がみられます。様々な諸事情により住み替えをしていく方もいらっしゃるのですが、今後も出来る限り現在の生活が継続できるよう1人1人に向き合い、必要な支援をおこなっていきたいと思います。



7月1日(土)

6回目の就職者の会を開催しました。

今回は、前半にいんくるを利用して企業へ就職をしていった方から現利用者に向けての話を頂き、後半を就職者のみで集まり近況を報告しながら歓談するという、二部構成にして実施しました。

一部では、三名の就職者の方から就職に向けて準備を進めている現利用者の皆さんに向け、自身が活動していた時、どんなことに悩み苦労していたか、活動中に身につけておいてよかったことなど、就職に向けてのアドバイスを話して頂きました。現利用者を前に話をしている皆さんは、非常に堂々と頼もしく、ひと周りもふた周りも大きくなった様に感じました。

(猪狩 真紀子)

ジョブアシストいんくる



7月10日(月)

花のある生活

ゆとりえデイサービスの建物南側の庭は、四季折々、多くの植物が生き生きと花を咲かせています。ガラスばりの窓からは、庭全体がみわたせて、春にはしだれ山桜・ハンカチの木の花、夏にはあじさい・ひまわり、秋には真っ赤に紅葉するオオサカズキのみみじ、冬には木々にしんと降り積もる雪景色をみることができます。

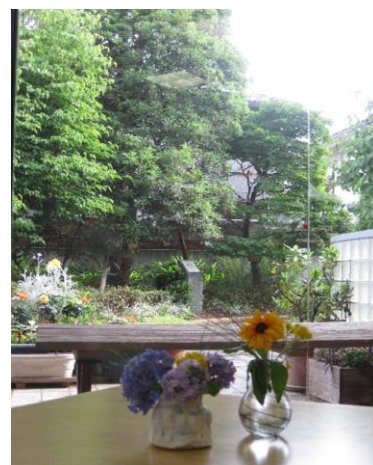
デイサービスセンターでは、ボランティアさんが庭から摘んできた花を生けて、各テーブルに季節の花が飾られます。ご利用者の中には自ら花を生けたり、花を長持ちさせる方法や花の名前について話をしたりして、コミュニケーションの広がりにもなっています。

花のある生活が送れるのは、植栽ボランティアさんの力です。自然を近く感じながら過ごせる日々、幸せを感じています。

(和田 枝里子)



ゆとりえデイサービス



7月10日(月)

音楽療法

障害者福祉センターでは、市内在住の愛の手帳を所持している小学生を対象として、4人程度の小グループで月曜日と土曜日の午後に約45分のプログラムを年間30回行っています。

音楽を楽しみながら、社会性・コミュニケーション能力・情緒の安定など発達全般を促す活動を行っていますが、発達支援としてはここ数年市内に放課後等デイサービスが増え、余暇支援としての役割が大きくなってきているところも見られています。気持ちの良い音楽の中での皆様の笑顔を大切にしながら、市内のニーズに沿ったより良い在り方を考えていきたいと思っています。

(伊藤 泉)

障害者福祉センター



7月14日(金)

みどりのこども館あそぼうデー

毎年7月にみどりのこども館あそぼうデーを開催しています。この会はこども館の地域開放と事業紹介を目的とし、イベントのために特別な事をするのではなくウィズ・ハビット・ぐるりんの普段の活動を体験していただく機会となっています。昨年度ハビット相談室の改修工事を行い部屋の使い方が変わったため、今回は従来よりもプログラムを減らしての実施となりました。当日はとても暑い日でしたが合計200名以上の来場者があり、帰り際には「すごく楽しかった」と言ってくさる方がたくさんいらっしゃいました。

(平沼 勝也)

みどりのこども館



7月19日(水)

色とりどりの押し花で…



押し花で作ったしおりの大量注文が入り、現在ペースをあげて製作中です！紫陽花やすみれ、パーペナなどそれぞれの季節の花を使って、ご利用者が色鮮やかな作品に仕上げてください。大小ある花をバランスよく配置して、しおりという小さな枠の中に、自由な発想で製作して頂いています。

しおりが1番人気の商品ではありますが、スマートフォンケースやメッセージカードなども製作しています。大地のベランダで育てたお花の、自然な優しい色合いをぜひお手に取って感じてみてください。

(植戸 綺香)

ワークセンター大地



事務局より 8月の予定

2日(水) 施設長会議
10日(木) 採用応募締切
15日(火) 高齢者施設職員研修

20日(日) 採用面接試験
22日(火) 誰でも相談室
31日(木) 経営企画会議

<編集後記>

毎日暑い日が続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか？

暑さに気力・体力も奪われがちですが、編集作業を通してみんな頑張っているんだ！と元気をもらいました。

皆様にとっても、この武蔵野日記が少しでもバテた気持ちを奮い立たせるビタミン剤になれば幸いです☆



ジョブアシストいんくる 猪狩